

背景

- 近年、医師に占める女性医師の割合は増加傾向にあり、現在、医学部生の約1/3が女性。
- これまで女性医師が少なかった診療科や職場、指導医や管理者においても、その割合が増えることが予想。
- 女性医師は妊娠・出産等により、キャリアを中断せざるを得ない場合が多く、女性医師を取り巻く状況を前提としたさらなる環境整備が求められている。

検討にあたっての視点

- ライフイベントを抱える女性医師のニーズに応じるとともに、医療の質を確保し、患者に必要な医療を安全かつ継続的に提供していくためにも、女性医師が働き続けやすい環境整備が重要。
- 個々の医師のニーズに応じた多様な働き方を支援するとともに、自らの希望するキャリア形成を図りながら、医師としての社会的役割を果たしていくという視点も重要。
- 様々な取組を複合的に進め、性別や職種を問わず、医療従事者全体の勤務環境の整備と調和することが必要。

医療機関等における環境整備

管理者自らが女性医師を取り巻く状況やニーズを認識した上で、各医療機関等で活用できる制度や社会資源を十分に把握し、総合的な取組を推進

①職場の理解

管理者や上司自らが進める職場の雰囲気作り、理解促進(管理者研修の活用、パンフレット作成等)

②相談窓口

ワンストップ相談、先輩の経験共有(専任スタッフ、情報交換会等)

③勤務体制

柔軟な勤務形態(短時間正規雇用、交替勤務制、当直や時間外勤務への配慮等)

③診療体制

チーム医療推進、地域医療における連携(複数主治医制等、事務補助職の活用等)

④保育環境

院内保育所の柔軟な運営(24時間保育、病児保育等)

⑤復職支援

医学知識や診療技術の提供(e-learning、実技実習等)

【大学】

キャリア教育、復職支援、キャリア形成支援等

【学会等】

復職支援、キャリア形成支援等

【臨床研修制度、専門医制度】

中断、更新にかかる配慮等

【都道府県】

相談窓口、院内保育所への補助、医療勤務環境改善支援センター等

【国】

女性医師バンク、都道府県への財政支援等